



I 第30週の発生動向 (2025/7/21~2025/7/27)

- 百日咳については、下北保健所管内を除く5保健所管内で患者が報告されており、特に中南保健所管内の報告数が多くなっています。手洗い等の基本的な感染対策の徹底をお願いします。

※現在、国及び国立健康危機管理研究機構が警報・注意報の基準値について確認を進めているところですが、県の週報に記載する発生動向では、当面の間、従前の基準値を用いて注意喚起を行います。

<感染症の窓>

今週のテーマは「新型コロナウイルス感染症」です。

最終ページに掲載しています。

II 第30週五類定点把握対象疾患

※記載データは、速報値です。

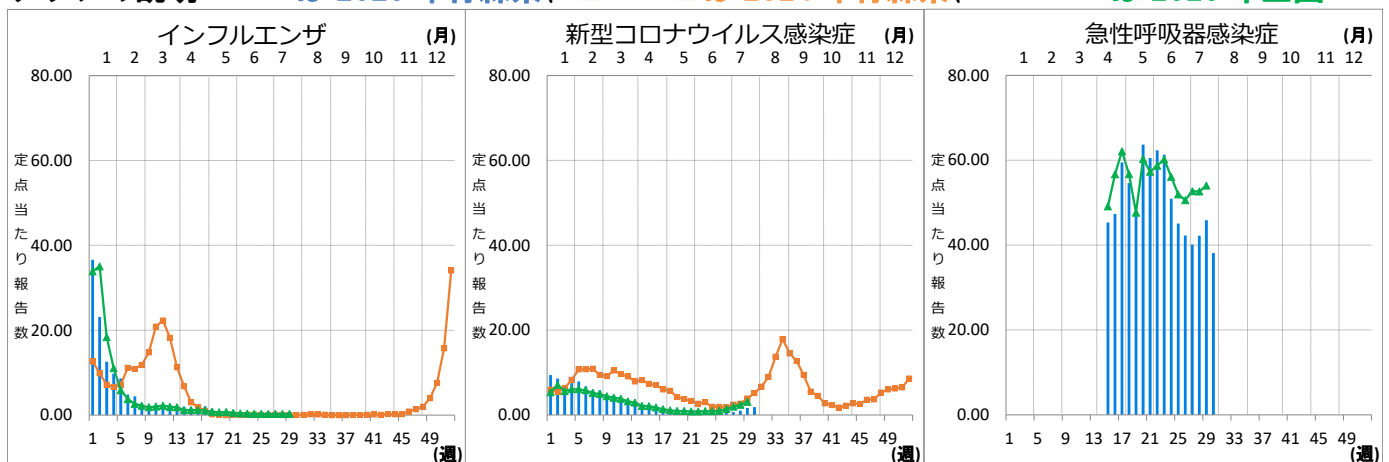
青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

は警報、は注意報。「空欄」：患者報告無し。

		東青 (東津軽+ 青森市保健所)		中南 (中南保健所)		三八 (三戸+ 八戸市保健所)		西北 (西北保健所)		上北 (上北保健所)		下北 (下北保健所)		青森県計		前週 からの 増減
		数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	
急性 呼吸器 感染症	インフルエンザ	4	0.36					1	0.17	1	0.11	1	0.17	7	0.13	-6
	新型コロナウイルス感染症	16	1.45	7	0.70	31	3.10	10	1.67	25	2.78	7	1.17	96	1.85	9
	急性呼吸器感染症	676	61.45	299	29.90	312	31.20	203	33.83	296	32.89	196	32.67	1982	38.12	-402
小児科	RSウイルス感染症	1	0.17	1	0.17	1	0.14							3	0.09	1
	咽頭結膜熱			1	0.17	2	0.29					2	0.50	5	0.15	-3
	A群溶血性レンガ球菌咽頭炎	4	0.67	5	0.83			2	0.40	1	0.17	4	1.00	16	0.47	-6
	感染性胃腸炎	13	2.17	10	1.67	31	4.43	12	2.40	2	0.33			68	2.00	-34
	水痘					3	0.43			2	0.33	1	0.25	6	0.18	-2
	手足口病			3	0.50							2	0.50	5	0.15	-1
	伝染性紅斑	1	0.17			2	0.29			4	0.67			7	0.21	0
	突発性発しん	5	0.83	2	0.33	6	0.86	2	0.40	4	0.67			19	0.56	12
	ヘルパンギーナ	4	0.67	1	0.17			2	0.40	1	0.17			8	0.24	2
	流行性耳下腺炎											1	0.25	1	0.03	-1
眼科	急性出血性結膜炎															0
	流行性角結膜炎															0
基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)															0
	クラミジア肺炎															0
	細菌性髄膜炎															-2
	マイコプラズマ肺炎	2	2.00	1	1.00	2	2.00					3	3.00	8	1.33	1
	無菌性髄膜炎															0

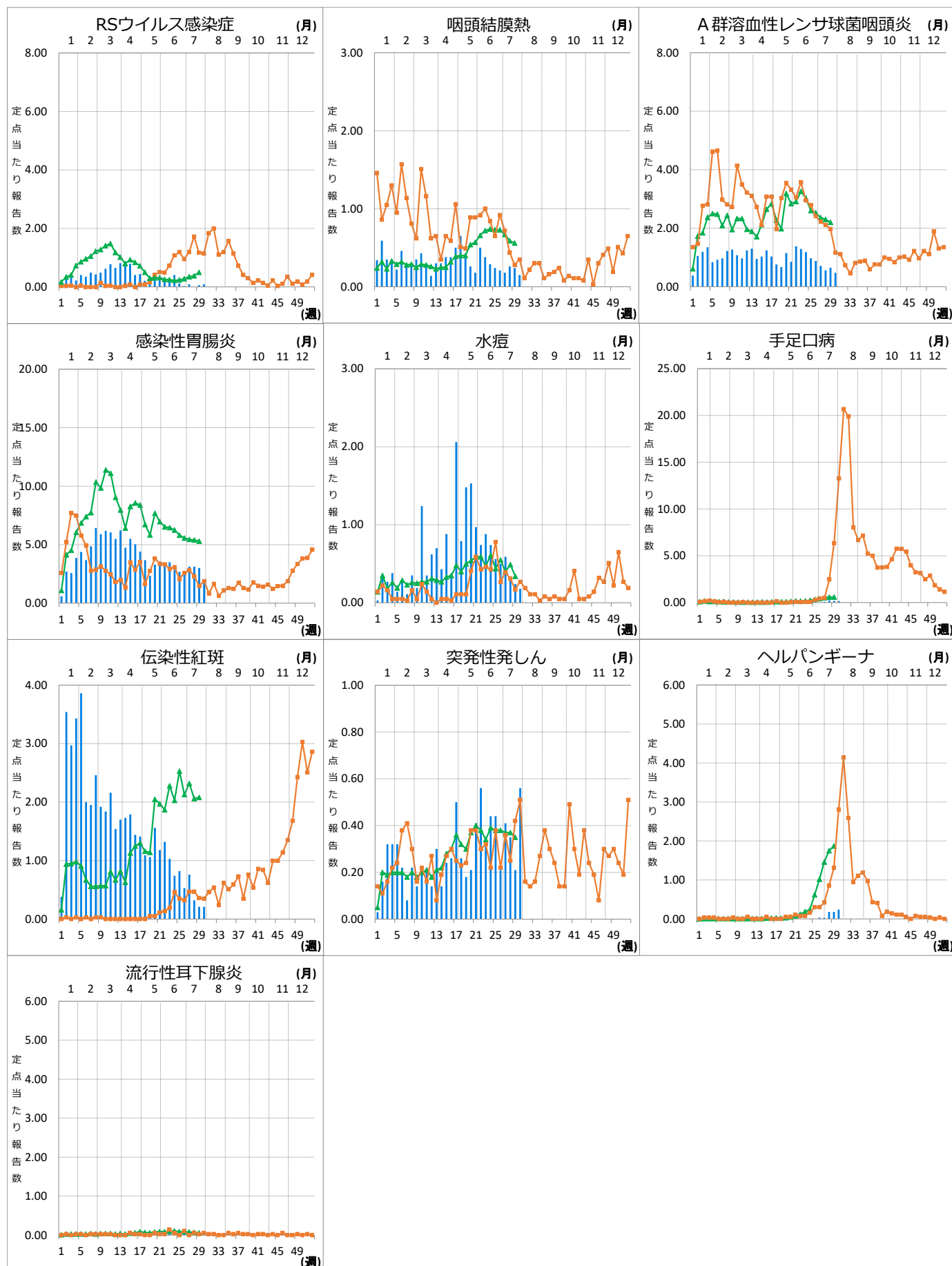
III 定点把握対象疾患週別推移 (急性呼吸器感染症定点) (2025年第30週、ただし全国は前週)

グラフの説明 〓は2025年青森県、■は2024年青森県、▲は2025年全国



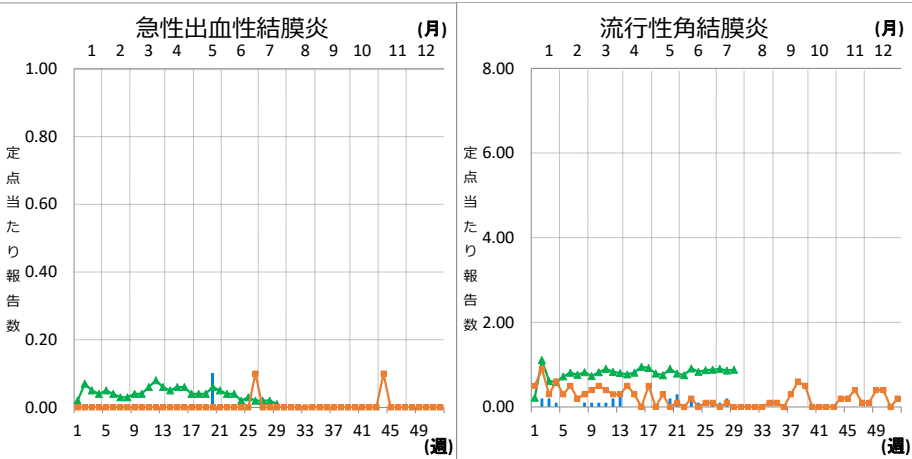
Ⅳ 定点把握対象疾患週別推移（小児科定点）（2025 年第 30 週、ただし全国は前週）

グラフの説明   は 2025 年青森県、 は 2024 年青森県、 は 2025 年全国



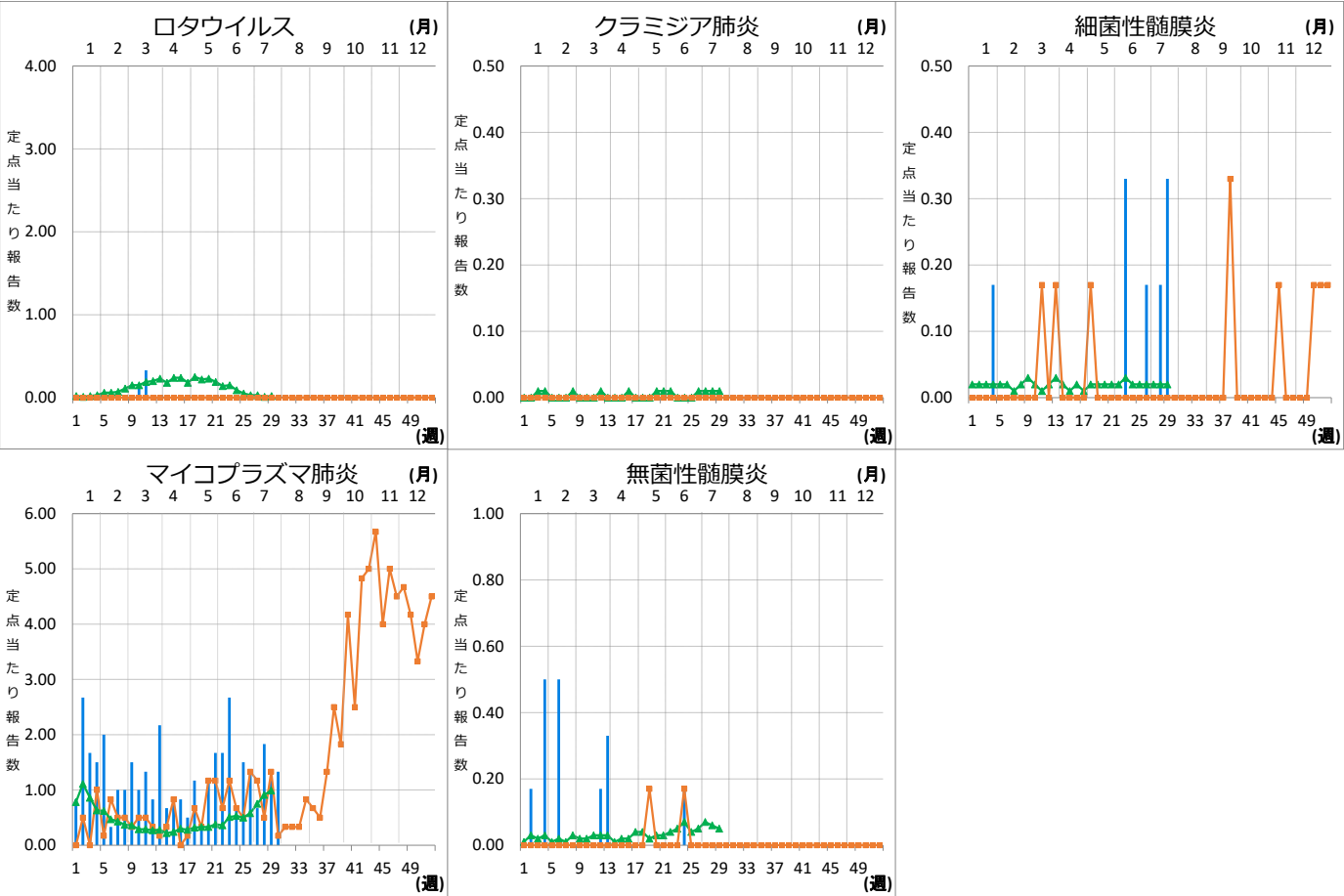
V 定点把握対象疾患週別推移（眼科定点）（2025 年第 30 週、ただし全国は前週）

グラフの説明👉——は 2025 年青森県、■——■は 2024 年青森県、▲——▲は 2025 年全国



VI 定点把握対象疾患週別推移（基幹定点）（2025 年第 30 週、ただし全国は前週）

グラフの説明👉——は 2025 年青森県、■——■は 2024 年青森県、▲——▲は 2025 年全国



Ⅶ 急性呼吸器感染症 (ARI) 病原体検出情報

(1) 急性呼吸器感染症病原体定点からの提出検体数及び結果判明分 (2025 年第 23～30 週)

急性呼吸器感染症	2025年							
	23週	24週	25週	26週	27週	28週	29週	30週
提出検体数	11	10	8	9	10	7	8	9
インフルエンザウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	
インフルエンザウイルスB	0	0	0	0	0	0	0	
SARS-CoV-2	0	0	0	0	0	0	0	
RSウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	
RSウイルスB	1	0	0	0	0	0	1	
ヒトメタニューモウイルス	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス1	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス2	1	0	0	0	0	0	1	
パラインフルエンザウイルス3	3	2	2	0	1	0	0	
パラインフルエンザウイルス4	1	0	0	0	0	1	1	
ライノ/エンテロウイルス	2	5	3	2	4	4	3	
アデノウイルス	2	1	0	2	1	0	0	
不検出	4	2	3	6	5	3	3	
検査待ち	0	0	0	0	0	0	0	9

※第23週に提出された検体のうち、RSウイルスB、ヒトパラインフルエンザウイルス3及びアデノウイルスが重複して検出されたものが1検体、ヒトパラインフルエンザウイルス3及びアデノウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

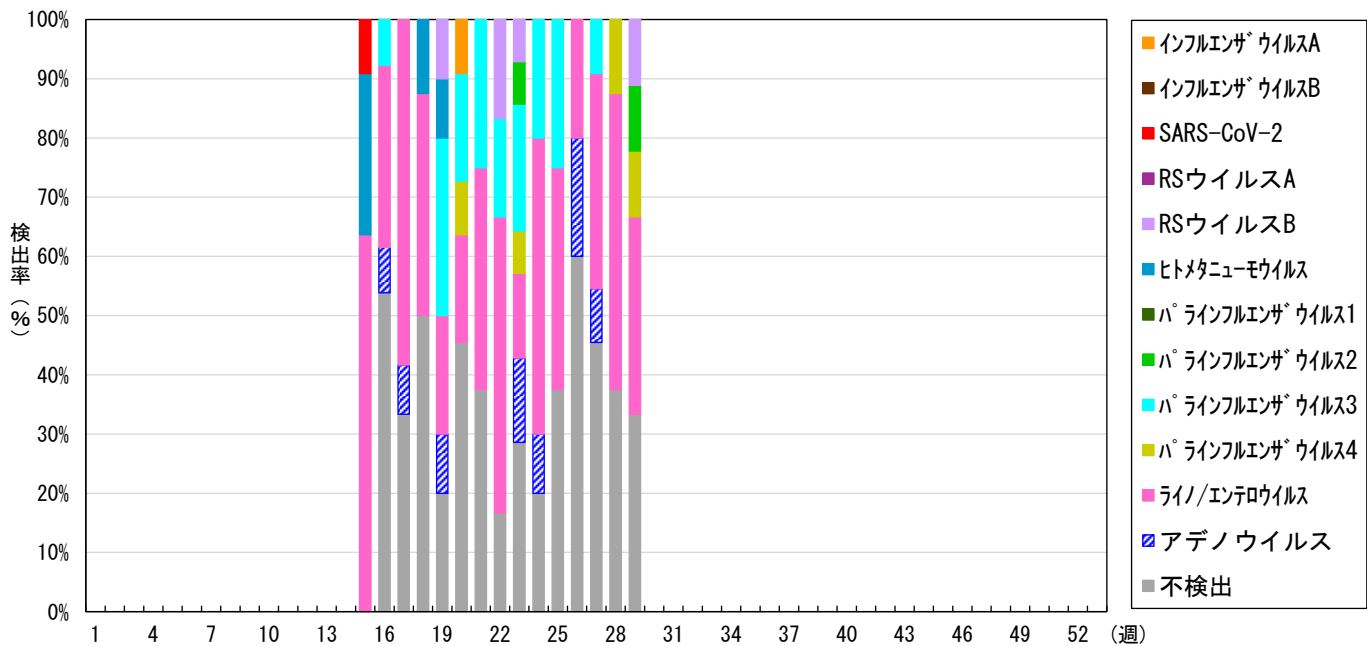
※第26週に提出された検体のうち、ライノ/エンテロウイルス及びアデノウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

※第27週に提出された検体のうち、ライノ/エンテロウイルス及びアデノウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

※第28週に提出された検体のうち、ヒトパラインフルエンザ4及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました

※第29週に提出された検体のうち、RSウイルスB及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました

(2) 検出された病原体の週別推移 (2025 年第 15 週～)



Ⅷ 全数把握対象疾患発生状況（第 30 週）

- ・結核（二類感染症）：青森市 1 人、中南 1 人（2025 年計： 66 人）
- ・腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）：青森市 2 人、中南 1 人（2025 年計： 15 人）
- ・梅毒（五類感染症）：中南 1 人（2025 年計： 15 人）
- ・百日咳（五類感染症）：青森市 1 人、中南 11 人、八戸市 5 人、西北 1 人、上北 2 人（2025 年計： 597 人）

Ⅸ 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況（2025 年第 27 週～2025 年第 30 週）

週	東青 （東津軽保健所+ 青森市保健所）	中南 （中南保健所）	三八 （三戸保健所+ 八戸市保健所）	西北 （西北保健所）	上北 （上北保健所）	下北 （下北保健所）
27	結核1人 百日咳2人	百日咳10人	百日咳7人	百日咳1人	腸管出血性大腸菌感 染症1人	
28	梅毒1人 百日咳1人	梅毒1人 百日咳11人	破傷風1人 百日咳6人	結核2人 百日咳1人	腸管出血性大腸菌感 染症1人	
29	結核1人 腸管出血性大腸菌感 染症1人 レジオネラ症1人 百日咳3人	百日咳23人	腸管出血性大腸菌感 染症1人 百日咳9人	百日咳2人	結核1人 梅毒1人 百日咳1人	
30	結核1人 腸管出血性大腸菌感 染症2人 百日咳1人	結核1人 腸管出血性大腸菌感 染症1人 梅毒1人 百日咳11人	百日咳5人	百日咳1人	百日咳2人	

第 29 週の青森市保健所管内での腸管出血性大腸菌感染症の届出が 2 件取り下げとなりましたので削除するとともに、百日咳の届出が 1 件ありましたので追加しました。

X 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

全国（2025 年第 1 週～第 29 週までの累計）										
分類	二類	三類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノкокクス症	エムボックス
累積報告数	7639	3	27	1324	17	3	338	79	19	1
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	オウム病	回帰熱	コクシジオイデス症	重症熱性血小板減少症候群	ダニ媒介脳炎	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	ブルセラ症
累積報告数	8	4	4	112	2	11	98	81	275	1
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類
疾病名	ボツリヌス症	マラリア	ライム病	類鼻疽	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺
累積報告数	1	15	6	1	1214	4	258	134	742	14
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	急性脳炎	クリプトスピリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）
累積報告数	315	15	93	851	464	20	431	57	2395	393
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類		
疾病名	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症		
累積報告数	7715	93	43	53	52490	8	190	4		

青森県（2025 年第 1 週～第 30 週までの累計）

分類	二類	三類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	E型肝炎	つつが虫病	日本紅斑熱	レジオネラ症	アメーバ赤痢	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性脳炎	クロイツフェルト・ヤコブ病
累積報告数	66	15	1	13	1	6	1	6	1	3
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類			
疾病名	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	梅毒	破傷風	百日咳			
累積報告数	5	1	3	14	15	1	597			

XI 病原体検出情報 ※（ ）内は、検査材料及び検体採取日報告はありませんでした。

XII 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

2025 年第 30 週

報告週	施設種別	発症者数	管轄保健所
第30週	児童・婦人関係施設等	22	八戸市保健所

2025 年報告件数及び発症者数

月(週)		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月					8月	9月	10月	11月	12月	計
施設種別		1-5週	6-9週	10-13週	14-17週	18-22週	23-26週	27週	28週	29週	30週	31週	32-35週	36-39週	40-44週	45-48週	49-52週	(施設別)
介護・老人福祉関係施設	件数	1	4	4	4	1	0	0	0	0	0	0						14
	発症者数	7	70	69	78	11	0	0	0	0	0	0						235
児童・婦人関係施設等	件数	4	10	8	7	1	3	0	0	0	1							34
	発症者数	74	228	136	128	25	50	0	0	0	22							663
障がい関係施設	件数	0	2	2	1	1	0	0	1	0	0							7
	発症者数	0	37	25	10	5	0	0	11	0	0							88
その他施設	件数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0							1
	発症者数	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0							10
計(月別)	件数	5	16	14	12	3	4			2								56
	発症者数	81	335	230	216	41	60			33								996

感染症の窓

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、多様な症状と高い感染性を特徴とする感染症です。2023 年 5 月 8 日から、感染症法上の位置付けが、季節性インフルエンザ等と同じ五類感染症に変更となりました。感染症情報センターでは、新型コロナウイルス感染症の位置付け変更後、各定点医療機関から収集した患者数のデータを、定点当たり報告数として週報で公表してきました。

定点医療機関からのデータ収集を開始した 2023 年第 19 週から 2025 年第 28 週現在までの推移は、図のとおりとなりました。

県内における新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は、年間を通じてゼロになることはありませんでした。全国でも同様の傾向であったことを踏まえると、現状では、時期を問わず、いつでも罹患しうる疾患であるといえます。また、新型コロナウイルス感染症は、例年、冬にかけて患者数が増加する傾向がみられるとされていますが、2023 年、2024 年ともに、夏にも定点当たり報告数が増加していました。2025 年も定点当たり報告数が同様に推移するとすれば、第 30 週頃（7 月下旬頃）から患者数の増加が見込まれますので、併せて注意が必要です。

予防策としては、「換気」、「手洗い・手指消毒」、「マスク着用」などの基本的感染対策が有効です。ただし、これからの時期は気温が上がり、マスクの着用によって、熱中症のリスクも高まりますので、自身の体調も考慮し、無理のない範囲での対策を心がけましょう。

新型コロナウイルス感染症

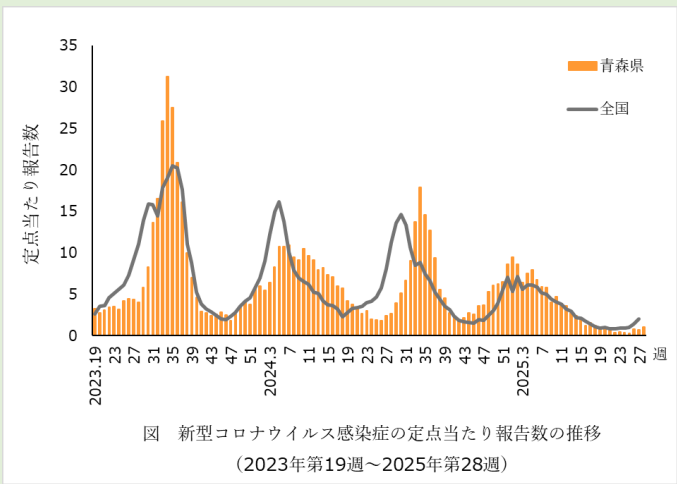


図 新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数の推移
(2023年第19週～2025年第28週)

○詳しい情報はこちらをご覧ください。👉[新型コロナウイルス感染症について\(厚生労働省 HP\)](#)

